

標 題 : Metabolic syndrome, adherence to the Mediterranean diet and 10-year cardiovascular disease incidence: The ATTICA study
メタボリックシンドローム、地中海食事への順守および
10年間の心臓血管系疾患発症 : ATTICA 研究

著 者 : C. M. Kastorini, et al. (ギリシャ アテネ ハロコピオ大学 栄養・栄養士学部)

掲 載 誌 : Atherosclerosis 246: 87-93 (2016)

要 旨 :

背景と目的 : メタボリックシンドロームのスペクトル(分布)を主成分分析でよく理解すること、およびメタボリックシンドロームの存在に対する地中海食事の役割をさらに評価すること。

方 法 : 2001-2002年の間に、ギリシャのアテネ広域圏に住む、開始時に心臓血管系疾患と他の慢性疾患の臨床所見のない男性 1514 人および女性 1528 人(>18 歳)を登録した。

2011-2012年に、10年間の追跡を参加者 2583 人で実施した(参加者の 15%は追跡できなかった)。

致死または非致死の心臓血管系疾患の発症を、WHO-ICD-10の基準に従って判定した。

メタボリックシンドロームを「国立コレステロール教育計画成人治療パネル III」(改訂版 NCEP ATP III)の定義によって判定した。

地中海食事への順守を、地中海食事スコア(範囲 0-55)を用いて評価した。

結 果 : 5つの主成分が得られ、全変動の 73.8%を説明し、a)体重および脂質組成、b)血圧、c)脂質組成、d)グルコース組成、e)炎症性因子によって特徴づけられた。全ての成分は心臓血管系疾患発症の高い可能性と関連した。

各種の潜在交絡因子を調整した後で、地中海食事スコア 10%上昇による地中海食事パターンへの順守は、心臓血管系疾患発症の 15%低い確率と関連した(95%CI: 0.71-1.06)。

地中海食事への順守が低い参加者で、5成分全てが心臓血管系疾患発症の可能性上昇と関連した。

しかし、積極的に地中海食事パターンにきっちり従っている人々では、今のところ有意な関連は観察されなかった。

結 論 : 本研究の結果は、広いメタボリックシンドロームの定義を提案すると同時に、地中海食事パターンの有益な役割を強調する。

キーワード : 心臓血管系疾患、発症率、地中海食事、メタボリックシンドローム
